

学位プログラムレベルでの学修成果の可視化とその支援

—スタートアップ支援制度の実施とmeaQsシステムの試み—

大阪府立大学 副学長 高橋哲也
高等教育開発センター 畑野 快

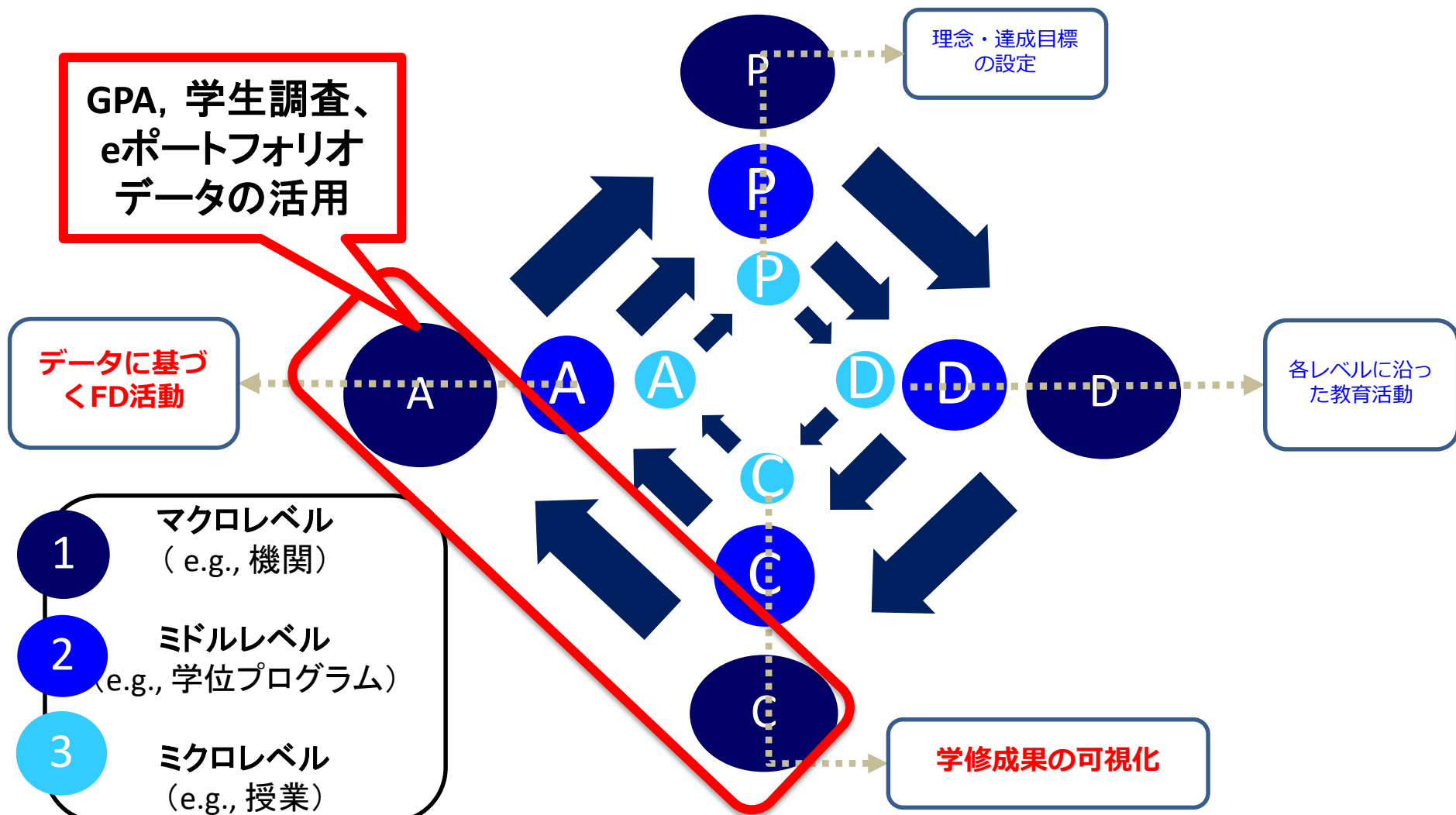


本日の内容

- ① これまでの取組みと課題
- ② スタートアップ支援制度
- ③ meaQsシステム

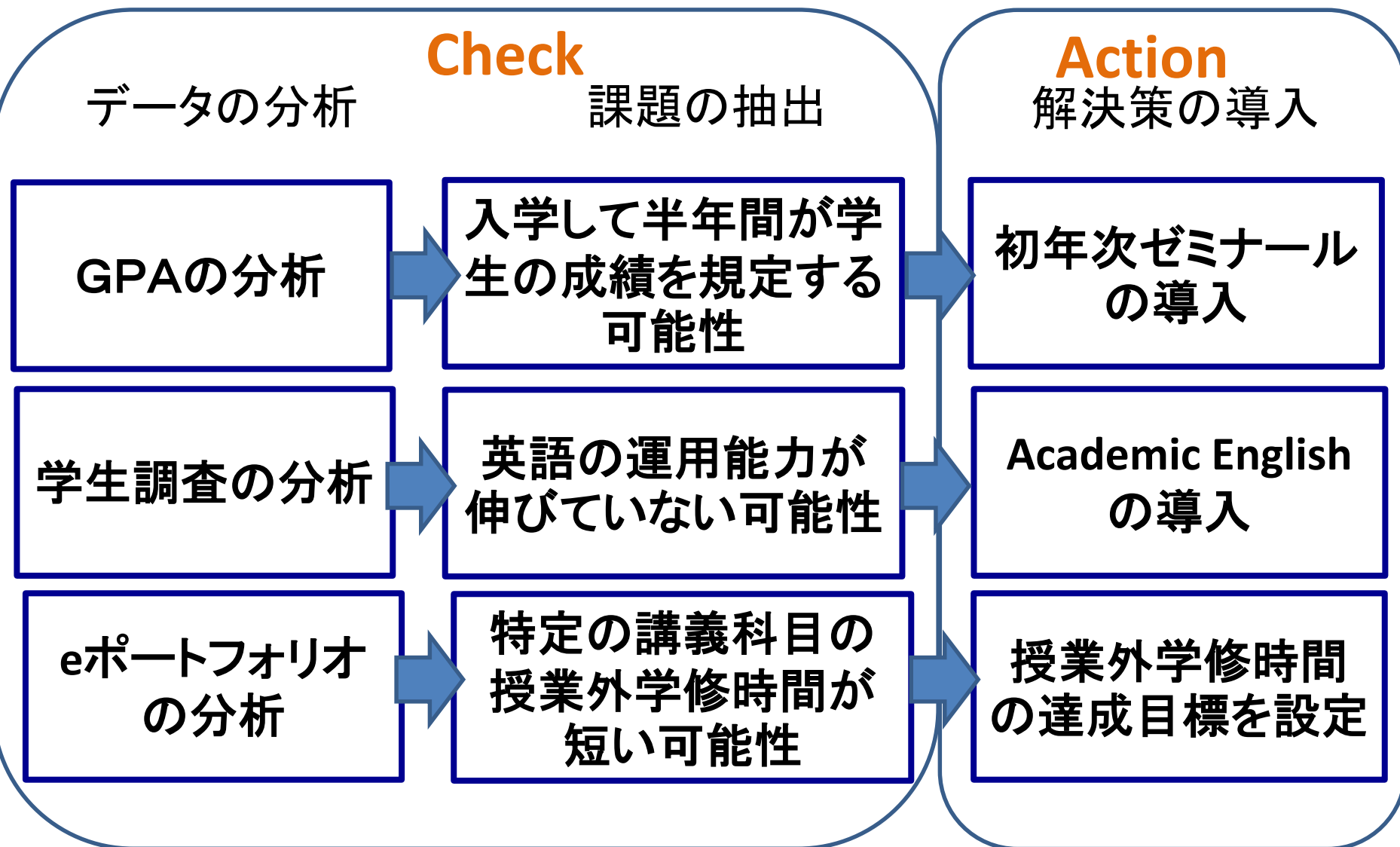


内部質保証システムの重層化



佐藤浩章(2015)FDの実践的課題解決のための重層的アプローチ大学教育学会課題研究報告書、森朋子・紺田広明(2017)関西大学の内部質保証システムにおける教学IRのデザイン参照

これまでのマクロレベルでの取組み



全学レベルでの可視化 (全学レベルでのデータの分析) → **全学共通教育に示唆**

- 学位プログラムレベルでの示唆にはなりにくい
- 学生調査等の分析データはあくまで「部外者(センター)」が主体の調査
- 各部署の教員が内部質保証システムについて十分に理解していない

各部署が**主体的に**内部質保証システムの構築を推進できるように支援する必要性



2017年度教育戦略室の発足と取組み

目的(の一部)

学士課程を中心とした教育の内部質保証システムの構築

- 年間6～8回程度会議を開催
- 参加者：副学長，学域長，高等教育開発センター長等
- 教育の全学基本方針(e.g., 内部質保証システムの構築)について執行部主導ではなく**ボトムアップ型**で議論を行う



2018年度スタートアップ支援制度

目的

教育プログラムにおける質の保証・向上
に資する部局での取組みの立ち上げに対
して**経費支援**を行うこと

Point 1 各学類の教員が内部質保証システムについて
理解を深めるための方策を支援する

Point 2 各学類の教員が学修成果を可視化するため
の方策を支援する



スタートアップ支援制度の取組みの例

学修成果の可視化

卒業研究

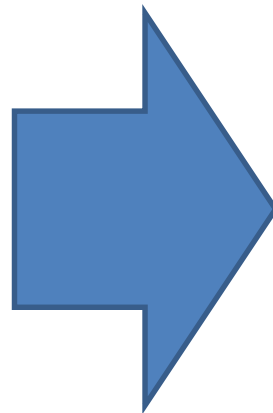
標準化テスト

国家試験

高等教育開発センターが支援

学生調査
eポートフォリオ

アクティブ・ラーニング



A学類

セミナー，参照規準を参考に体制を構築(e.g., 卒論のルーブリック作成)

B学類

GPS-Academicを実施予定

C学類

PROGテストの実施とGPA, eポートフォリオデータとの関連を分析予定

D学類

模試の活用を検討

E学類

アクティブ・ラーニング，国家試験合格を支援するためのシステムを開発



大阪府立大学

高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～

2018年度スタートアップ支援制度の狙い

各部局が**主体的に**内部質保証システムの構築を推進できるように支援すること

- 4年間の継続的な支援を実施予定
- 得られた成果や抽出された課題については全学の会議や教育戦略室会議等で議論していく予定
- 部局を主体とした内部質保証システムの構築を目指す



アクティブ・ラーニング

学生にあるものごとを**行わせ**、行っているものごとについて**考えさせる**こと
(Bonwell & Eison, 1991)

- 知識の「内化」と「外化」の往還がポイント



不活性知識と意味学習

- **不活性知識**

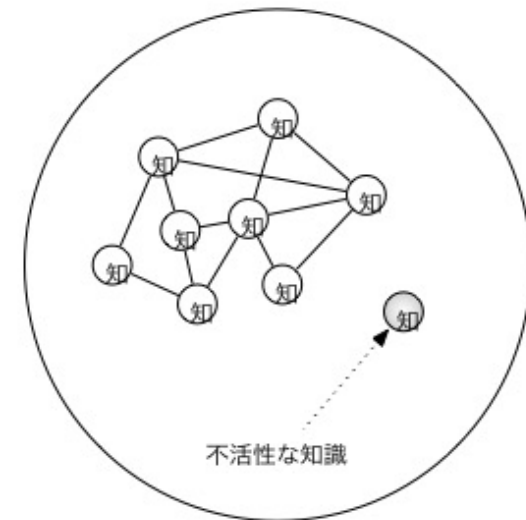
(inert knowledge: Whitehead, 1929)

- 教えられた文脈の範囲内でしか使えない知識。

- **有意味学習**

(meaningful learning: Ausubel & Robinson, 1984)

- 「意味」とは、あることと他のことを「関連づけること」であり、知識のネットワークを構成することが意味のある学習。



知識の意味的ネットワーク

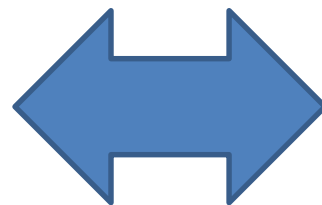
内化 = 学習者が知識を体制化したり精緻化することで知識のネットワークを構成すること



アクティブ・ラーニングを実践するポイント

内化・外化を
どのように支
援するか

内化



外化

アクティブ・ラーニング

- 方策1: 教授学習法で支援する→反転授業
- 方策2: ICTで支援する→meaQsシステムの開発



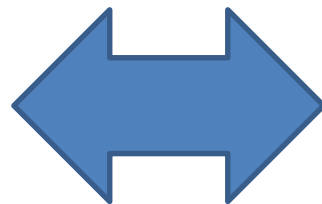
meaQsシステムの開発

(meanings well up from the Question sharing!)

- 環境システム学類岡本真彦教授が中心になって開発した問題作成システム
 - 選択問題と記述問題を作成可能
- コメント機能によって学生同士が議論する場を構築

問題作成
機能で支援

内



コメント
機能で支援

外

アクティブ・ラーニング



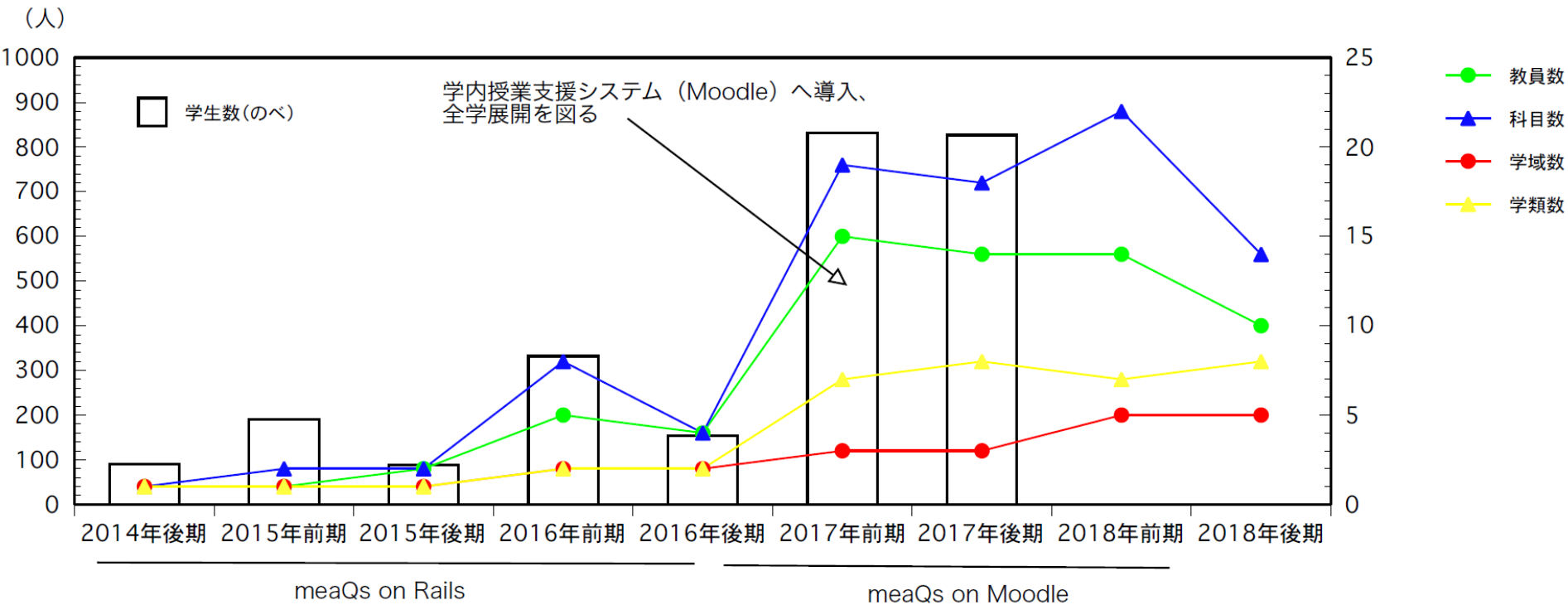


図 meaqSシステムの利用者数の推移

教養科目 vs 専門科目

	教養科目	専門科目
受講生数	多い (n=100)	少ない (n=20)
履修への動機づけ	個人差が大きい	全体に高い
既有知識	少ない	多い
試験問題の型・難易度	同じ	
meaQs システムの効果	個人に依存する?	全体に有効

meaQsを有効に機能させるためには、科目の特性、クラスサイズ、個人特性を考慮して授業をデザインする必要がある



meaQsの質保証への活用

- forQs (formative assessment with question sharing)システムの開発
- 問題集約システム

- 専攻の必修科目でmeaQsを使用
 - 問題をプール
 - 公認心理師試験での対策に活用



宣伝

- meaQsはLMSにmoodleを利用している大学の先生なら誰でも使えます。
- 興味を持たれた先生はいつでも岡本真彦先生ご連絡ください。
- (AP合同フォーラムで話をきいたとおっしゃっていただければスムーズに対応できます)
- meaQs システム : <http://www.ess.osakafu-u.ac.jp/human/okamoto/squish/>

